

## 「ロータリーにおける奉仕の理念の変遷」

2011.7.27 高萩 RC ロータリー情報・研修委員会

- 1905 年 シカゴ RC 創立——会員の相互扶助と親睦を目的
- 1906 年 シカゴ RC 二か条からなる「クラブ定款」制定
- 第 1 本クラブ会員の事業の利益拡大**
- 第 2 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思惟する事項の推進**  
    その後、互惠主義に反省が求められ、地域社会に対する貢献、公共への奉仕を  
    追加したことによって、ロータリー・クラブの活動の方向性が定まった。
- 第 3 シカゴの最大の利益の推進及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に広めること**
- 1907 年 シカゴ RC が最初に行った社会奉仕活動は、「公衆便所設置運動」で、無料の公衆便所に  
    反対する醸造組合と百貨店組合の妨害もあり、1907 年の提唱から完成まで 3 年かかった。  
    ——単なる寄付行為ではなく市民運動にしていたことが、後のロータリー  
    の社会奉仕活動の在り方を示唆している。
- 1908 年 アーサー・F・シェルドンとチェスリー・ペリーがシカゴ RC に入会  
    この頃から、シカゴ RC 内で会員同士の親睦や金銭的な相互扶助を優先させようとする  
    「親睦・互惠派」と精神的な仲間意識を大切に、対外的な奉仕活動を積極的に行って  
    いこうとする「奉仕・拡大派」の対立が起こる。ポール・ハリスやシェルドンは奉仕・  
    拡大派であるがクラブ内では少数派。(第 1 の危機)  
    ロータリーソングはこの路線対立のぎすぎすした雰囲気や和らげようと、シカゴ RC5  
    人目の会員ハリー・ラグルス呼びかけにより皆で歌を歌ったのが始まり。
- 1908 年 11 月 サンフランシスコ RC が設立
- 1910 年 全米ロータリー・クラブ連合会結成 (16 クラブで、会長はポール・ハリス、事務総長は  
    チェスリー・ペリー) ——シカゴ RC の「親睦か奉仕か」を解消するため、クラブでは  
    「親睦」を旨とし、連合会で「理念提唱とクラブの拡大」を推進することとした
- 1911 年 ポートランドの第 2 回全米ロータリー・クラブ連合大会で、シェルドンの“**He profits most  
    who serves best**” と、フランク・コリンズのスピーチから “**Service not self**” がロータ  
    リーの非公式の標語として採用された
- 1912 年 国際ロータリー・クラブ連合会に改称
- 1915 年 サンフランシスコ国際大会で「道徳律 (ロータリー倫理訓)」採択
- 1917 年 アーチ・克蘭フ会長が「世界で善を成すための寄付金」を呼び掛け、「**アーチ・克蘭  
    フ基金**」が創設された。1928 年のミネアポリス国際大会で基金は「**ロータリー財団**」と  
    改称され、発展を続けた。
- 1915 年～1923 年頃 ロータリーの第 2 の危機——分裂の危機——奉仕理念を提唱・奨励する  
    か、実際に困っている人たちへの奉仕を積極的に行うかの路線対立。
- \*理念提唱派は、自らの職業で利益を適正に配分し、職業倫理を高揚し自己研鑽  
    に励み、奉仕活動は個人の立場で行うべき
- \*奉仕実践派は、社会的弱者に対する人道的奉仕を實踐すべきで、金銭的な援助  
    や RC の団体としての活動も積極的に行うべき
- 当時は、身体障害児への援助に熱心に取り組むクラブも多く、世間からは RC は身体  
    障害児援助専門の団体とされていたこともあった。
- 1920 年頃 “Service not self” は自己否定が強すぎるとして “**Service above self**” に変えられる
- 1921 年 アメリカ以外で最初のスコットランド・エジンバラ国際大会を記念して、シェルドンが「ロ

- 「ロータリー哲学」を講演
- 綱領に国際親善と平和の項目を加えることを決定——**国際奉仕の概念**が生まれる
- 1922年 国際ロータリー・クラブ連合会が国際ロータリーに改称。ロータリーの綱領・定款・細則を改正
- 1923年 セント・ルイス国際大会において、理論派と実践派の対立を解消するに効果があった「**決議 23 - 34 号**」（ナッシュビル RC のウィル・メーニアーが取り纏め）が採択。  
——社会奉仕に関するロータリーの方針が定まる  
なお、採択当時のタイトルは「綱領に基づく諸活動に対するロータリーの方針を再確認し、国際ロータリーとロータリー・クラブにおける今後の手引きとなる原則を定める件」であった。従って、「社会奉仕」に限定されるものではなく、ロータリーの「奉仕」と活動に関する基本方針の表明であった。  
その後何度か内容の改定もあり、現在のタイトルは、「社会奉仕に関する 1923 年の声明」であるが、近年 RI としてはこれを廃止しようとする動きがある。
- 1927年 ベルギーのオステンデ国際大会で、**四大奉仕部門**が設定される。  
以後、**職業奉仕**という用語が公式のものとなる。
- 1932年 ハーバート・テラー「**四つのテスト**」を作る（ 倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社の会社再建のために考案した社員の行動基準 ）  
RI 理事会はこの「四つのテスト」を 1943 年正式に採択、テラーは 1954 年 RI 会長に就任した時に四つのテストの著作権を RI に寄付
- 1936年 RI70 地区神戸大会で「大連宣言」が地区の「宣言」とするか否かで大激論となり、ロータリー綱領の補充説明であるということで決着した。
- 1940年 「青少年への奉仕の目標」を発表
- 1950年 デトロイト国際大会で、**”He profits most who serves best” “Service above self”** が公式標語として採択
- 1951年 「道徳律」が廃止される  
「**ロータリーの綱領**」に最も重要な最後の変更が行われ、現在の綱領が確定した。
- 1962年 インターアクト・クラブの発足  
世界社会奉仕プログラム発足、人道奉仕活動への転換
- 1965年 ロータリー財団は研究グループ交換、専門的訓練補助金、ロータリー財団の目的に沿った事業に対する補助金（後の同額補助金）という 3つのプログラムを開始
- 1968年 ローターアクト・クラブの発足
- 1971年 ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYRA）開始
- 1978年 **RI 最初の国際奉仕事業**として保健・飢餓追放・人間尊重の 3-H プログラムが発足
- 1985年 **ポリオ・プラス・プログラム開始**
- 1987年 RI 職業奉仕委員会が 40 年振りに召集され、その答申に基づいて「職業奉仕に関する声明」を採択——職業奉仕は会員個人とクラブ双方の責任であることを認めた
- 1988年 女性の入会が認められた
- 1989年 シンガポール規定審議会で **“Service above self”** が第一標語に、**“He profits most who serves best”** が第二標語に指定された
- 1992年 規定審議会で社会奉仕に関する新声明として「決議 92 - 286 号」が採択。個人奉仕と共に、クラブの団体奉仕を推奨し、RI が積極的に奉仕の実践例を提案することが明示
- 2001年 規定審議会で、「全てのロータリー用語から性に関する表現を削除する件」が採択  
He profits ～は One をつかうことになった
- 2004年 規定審議会で、**”They profit most who serve best”** に変更